

ハウス栽培 これまでの活動（2013年10月～2017年8月）

ふくしま再生の会
大永貴規

- ◇全村避難中、ビニールハウス内で放射能汚染のない“クリーン野菜”の生産に取り組んできた。目的としたことは・・・。
- 1. ハウスで放射能汚染のないクリーン野菜が生産できることを確認する。
 - 2. 通い農業でもできる省力型システムを導入し、村民・都市住民の交流の場をつくる。
 - 3. 飯舘村に適した作目を試作し、帰村後の農業の再生に備える。

■宗夫ハウス

作業が楽なように高設とし、軽石をもちいた点滴型養液栽培施設を採用。放射能フリー野菜ができることを確認。葉野菜・トマト・スイカ・いちごなどを試作。NPO都市農村交流推進センターと協働、三井物産環境基金支援事業。



■永徳ハウス

30坪の既設パイプハウスを補修利用。ひと味違う野菜の栽培に挑戦した。ハウス内での高設栽培と 養液土耕システムの併用による栽培実験。



■明大ハウス

水と肥料を遠隔自動供給する養液土耕システムを導入。ピーマン、パプリカ、リーフレタスを栽培。収量を測定し周年栽培モデルの構築を目指す。 明治大学支援事業。



■ミニハウス

超小型の簡便なハウスを増設。少量栽培試験や種苗栽培の取り組みを開始。



ハウス栽培の継続とこれからの農業支援 （村民ニーズに沿った農業支援活動）

帰村が実現していよいよ農業をベースとする生活の再生が始まる。多様な生活スタイルに即した農業支援を模索する。まずは土壌や農産物の放射能測定を持続し、汚染がないことを確認し、安全な農産物を生産・加工・販売する活動の支援を持続。

(1)周年栽培による収量増（冬期対策等）	●バイオマスストーブによる暖房（灰、排ガスの放射能除去実験） ●地下水、太陽光、夜間電力、蓄熱材利用等による培地凍結防止実験 ●水分センサーによる培地水分コントロール（点滴軽石栽培）
(2)周年栽培モデル	●ハウス栽培実験をもとにした周年栽培ローテーション計画。
(3)帰村後の生活に即した営農形態の検討（農業者の希望に沿ったハウス営農を共同で検討）	●中規模ハウス栽培の取組支援：帰村営農（個人、集団営農） ピーマン、ホウレンソウ、トマトなどの収益性の高い作目 ●生きがい農業：“通い農業”コミュニティ 小規模ハウス群を共同で生産管理 省力型、遠隔管理型栽培システム導入 庭先ホビー型小型栽培システム（廉価施設） ●農業体験と営農体制：ファーム・ステイ 飯舘村での農業体験と営農支援を組み合わせた仕組みを共同で検討
(4)加工農産物の試作	●ジャム(ヤーコンジャム etc)、ヤーコン茶等：専門家との共同試作。
(5)販路検討	●産地直送：市場性のある作目の生産とセット。再生の会会員などから先行的に。 ●道の駅、スーパーなどへの出荷検討
(6)新規作目の検討	●ハウスでの試験栽培の継続；希少野菜(外国野菜等)、花き。
(7)機能性植物(体に良い植物)の試作	●苦くない韃靼そば(満天きりり)、高品質ヤーコン(アンデスの乙女)、スーパー甘草。